

安政2年江戸地震と安政3年台風

矢田俊文（新潟大学災害・復興科学研究所）

1 はじめに

大地震・火山噴火など、発生頻度は低い、いちど発生すると甚大な被害を生じる災害を低頻度巨大災害と呼んでいる。長岡藩領内の183年間の災害を検討すると、①長岡藩領の自然災害による被害は、洪水被害が高頻度で起こっている。②長岡藩領における地震は183年間に3度しか起こっていないが、地震による被害数（死亡者数・家屋倒壊数）は死亡者数は地震以外の災害による最大死亡者数の14.26倍、地震による家屋被害数（潰家）は地震以外の災害による最大家屋被害数の4.11倍であり、他の災害とは比較にならないほど多い（矢田2015）。これは近世長岡藩の事例であり、同様の検討を各地で行なう必要がある。長岡藩の検討事例には台風は含まれない。台風の被害は地震被害とどちらが大きいのか、武蔵国橋樹郡川崎領における安政2年（1855）10月4日の安政江戸地震と翌安政3年（1856）8月25日の台風被害を比較してみよう。

2 安政2年江戸地震と安政3年台風の家屋全壊率

武蔵国橋樹郡川崎領における安政2年（1855）10月4日の安政江戸地震の被害の研究は、北原2003でも検討している史料Aによって行うことが重要である。史料Aでは川崎領15か村（厳密には組合村）の被害状況が記される。この15か村の家屋の全壊率（皆潰21軒/家数1726軒）は1パーセントである。この被害率は隣接する神奈川宿の全壊率3パーセントと比較するとそれほどの違いはない。多摩川より西の武蔵国川崎領・神奈川宿地域の全壊率は1～3パーセントと考えてよからう。

川崎領は地震の翌年安政3年（1856）8月25日に台風のため被害を受けた。その被害はどの程度であろうか。川崎領における安政3年台風被害を検討するための基本史料は史料Bである。史料Bは各村の被害数（史料Cなど）を集計したものである。史料Bと史料Cの市場村の被害数を比較すると、居宅皆潰・半潰数が同じであることがわかる。

安政3年台風被害に関係する史料として他に史料Dがある。史料Dは家屋が全壊した者等へ施入した史料で、必ずしも被害数全体がわかる史料ではないが、史料Bと史料Dを比較すると、渡田村〔史料B皆潰28軒・半潰10軒、史料D皆潰27軒・半潰11軒〕、小田村〔史料B皆潰22軒・半潰3軒、史料D皆潰22軒・半潰3軒〕であり、渡田村は史料Bと史料Dではすこし違うものの、小田村の場合は史料Bと史料Cの被害数はまったく同じである。よって、史料Bと史料Dは安政3年台風被害の史料と考えて間違いはない。しかし、井上1994・北原2003は、史料Dを安政2年安政江戸地震被害関係史料として扱っている。これは明らかに誤りである。

史料Bには村の家屋総数が記載されないが、嘉永7年（1854）の家数（『寒川町史3 近世編 近世（3）』）で家屋全壊率を導き出すと22パーセント（村数14か村、皆潰392軒/家数1751軒）となる。武蔵国川崎領における安政3年台風の家屋全壊率は22パーセントであり、安政2年江戸地震の家屋全壊率1パーセントと比較してはるかに大きい。これは安政2年江戸地震全体の被害と安政3年台風全体の被害を比較したものではないが、安政3年台風の方が安政2年江戸地震の被害よりも大きい地域が存在するのである。

3 おわりに

地震研究者は安政2年江戸地震の研究を行うが、安政3年台風の研究は行わない。台風の研究者は地震の研究を行わない。しかし、地域の住民にとって地震であろうと台風であろうと被害は同じである。歴史学においては、安政2年江戸地震も安政3年台風も研究の対象としなければならない。

〈文献〉

井上 攻、災害と救恤、川崎市史 通史編2 近世、川崎市、1994年

北原糸子、近世災害情報論、塙書房、2003年

村岸純ほか、一八五五年安政江戸地震における江戸近郊の被害、災害・復興と資料8号、2016年

矢田俊文、自然災害の発生頻度と被害規模―越後長岡藩領を事例として―、災害・復興と資料6号、2015年

(史料A)

安政二年十月地震領中村々潰家破損取調書上帳控

(横浜開港資料館所蔵添田家文書)

(表紙)

「安政二年

大地震二付領中村々潰家破損御取調書上帳控

卯十月

市場村

名主 添田七郎右衛門

武州橋樹郡川崎領

市場村

村高七百弍拾六石壹斗九合五勺

惣家数百三拾軒

一、皆潰家壹軒

梁簡貳間半
桁行五間半

百姓 新右衛門

持高六石三斗五升六合弍勺

一、半潰家壹軒

梁簡四間
桁行四間半

百姓 安兵衛

持高壹石五斗五升

一、半潰家壹軒

梁簡二間
桁行四間半

百姓 惣右衛門

持高八斗九升七合

一、右之外破損家数拾四軒

一、怪我人・即死等無御座候

(下略)

(史料B)

安政三年風災一件当要書留 (横浜開港資料館所蔵添田家文書)

(表紙)

「風災一件当要書留

添田

(中略)

一、居宅皆潰三拾軒 内六軒汐入

市場村

一、同 半潰拾六軒

外二物置小屋皆潰四拾五ヶ所

同 半潰拾ヶ所

(下略)

(史料C)

安政三年市場村風災被害書上

(横浜開港資料館所蔵添田家文書 『神奈川県史資料編 10 近世 (7)』)

(表紙)

「安政三年

風災二付潰家数取調書上帳

辰八月

武州橋樹郡

市場村

村高七百弍拾六石壹斗九合五勺

一、家数百弍拾九軒

内

皆潰居宅二拾軒

半潰居宅拾六軒

(中略)

右之外

一、皆潰物置小屋四拾五ヶ所

一、半潰同断 拾ヶ所

(下略)

(史料D)

安政三年領中村々潰家江施入名前書留 (横浜開港資料館所蔵添田家文書)

(表紙)

「辰十月
領中村々潰家江施人名前書留

添田